

ICT 活用指導力の向上を促す ミドルリーダーのマネジメント行動

学籍番号 229113
氏名 永井 達也
主指導教員 佐々木 靖
副指導教員 寺嶋 浩介

1. 研究の背景と目的

学習指導要領(文部科学省2017)では、情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、さらに「ICTを活用した学習活動の充実」を図ることが明記された。さらに、2021年度には全国的な1人1台端末の導入や通信環境の整備等、「教育の情報化」に向けた環境整備が急速に進んだ。しかし、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(文部科学省2021)によれば、教員のICT活用指導力に関しては、大項目B「授業中にICTを活用して指導する能力」や、大項目C「児童生徒のICT活用を指導する能力」は比較的低いとされており、「環境の整備の充実」に対し教員の指導力が十分でないという課題が浮き彫りになっている。

実習校においても、ICTを活用した学習活動の充実は喫緊の課題であり、「教員のICT活用指導力チェックリスト」(文部科学省2018)を用いて実践前の7月に調査したところ、全ての項目において全国平均を大きく下回る結果であった。

こうした課題を解決するためには、児童に対して指導する教員のICT活用指導力の向上が必要である。ただし、学校現場では、教員の年齢や教員歴、ICT活用頻度、ICTを授業で活用する上での自信など教員によって違う。本研究では、こうした実情を踏まえつつ、①教員のICT活用指導力の全体的な底上げを図ること、②そのための組織や個人に対するマネジメント行動の機能や役割を明らかにすることを目的とした。

2. 実習校の実態調査に基づくマネジメントプランの設計

教員のICT機器活用頻度やICT活用指導力の実態を把握するために、質問紙調査を用いて実態調査やマネジメントプランの設計を行った。質問紙作成にあたって、ICT活用指導力チェックリスト(文部科学省2018)を用いた。実習校教員25名による調査の結果、「ほぼ毎日ICTを授業に活用している」と回答した教員が8%であった。一方、「全く使っていない。」と回答した教員が20%にのぼった。「活用している」と回答した教員の多くは、授業に関するスライド資料や映像、画像を提示したり、デジタル教科書を提示したりすることで、学習方法や内容の理解を深めさせることに活用していた。一方で、「ICT活用に対する不安」を抱える教員が多いことが明らかになった。

そこで、アンケート調査の回答について不安の要因や懸念事項をKJ法により3つに分類整理し、それを解決するためのマネジメントを「校内研修」、「取組改革」、「環境改善」とした。

校内研修では、ICTの活用の方法や指導のスキルを高めることに重点を置いてICTの活用

に関して組織的な学びにつなげることを目的とした。

取組改革では、組織的に ICT 活用を意識した取組を展開することで教員や児童が 1 人 1 台端末を日常的に使う仕組みを作り、操作スキルの定着や新しい活用方法の拡大を図ることを目的とした。

環境改善では、寄せられた懸念事項の一つ一つを迅速に課題解決していくと共に、教員に対して ICT 活用を取り入れた授業計画を促す環境を整えることを通して ICT 環境の改善と ICT を活用した授業計画・実践の支援的マネジメントを行っていくことを目的とした。

3. マネジメントの実践

校内研修では、事前調査によるニーズ分析等のエビデンスに基づいた研修設計を行った。合計 7 回の校内研修を実施したが、毎回の研修後にアンケートを実施し次回の研修設計に活かした。実践開始当初は ICT 機器や学習ソフトの操作を学ぶ内容が中心であったが、次第に ICT を活用した授業づくりや児童に ICT を活用した学習の指導に関する内容に変化していった。

取組改革では、ミドル・アップダウンマネジメントを通じた学校としての取組のアイデア実現を目指し、ICT 活用に関する自主学習会「GIGA 研」の開催や、グループウェアを活用した業務改善、タイピング練習ソフトを用いた児童のタイピングスキルの向上等に取り組んだ。

環境改善では、支援的マネジメントを通じた教員への支援から ICT 活用促進の実現を目指し、1 人 1 台端末の一括管理や GIGA 回線の拡張、教室の充電スポットの設置などを実施し ICT 環境を整備してきた。また教員の要請に応じて ICT を活用した授業づくりの支援を行った。

4. マネジメントの評価と教員の実態変容

教員の ICT 活用頻度と ICT 活用指導力について調査・比較・分析をした。さらに、ICT 活用頻度や ICT 活用指導力に関して変化が見られた背景として筆者が組織に対して行ってきたマネジメントがどのように影響しているのか、またどのような役割を果たしたのかについて明らかにするため、児童が下校した後や勤務後に以下のような方法で半構造化インタビューを実施し教員の心の内を吸い上げた。

結果の全体像として、実践を始めてからは、それまでほとんど活用していなかった教員が、指導の際に画像や動画を提示することから始めるようになった。また、多くの教員が積極的にデジタル教科書や学習ソフト等を用いて、授業を行うようになった。ICT 活用指導力チェックリストの回答でも、ほぼ全ての項目について、研究開始前の結果と比較して、肯定的な回答の平均値の増加が見られた。

この研究で実践した過程・結果・課題は、今後の GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末や、学校と家庭との双方向通信など、次世代を見据えた新しい学びに向けた教員の資質・能力や指導力の向上に生かしていかなければならないと考える。